

Memento

第5号

京都部落問題研究資料センター通信

発行人 灘本昌久
 発行所 京都部落問題研究資料センター
 京都市北区小山下総町5-1
 京都府部落解放センター3階
 TEL・FAX 075-415-1032
 郵便振替 00930-4-16404
<http://www.asahi-net.or.jp/qm8m-ndmt/>

「部落は顔でわかる」!?

同和・人権教育の総合学習は啓蒙主義を超えられるか

灘本昌久

総合学習のはじまり

最近、総合学習(あるいは総合的学習)という言葉をよく耳にする。『現代用語の基礎知識』(2001年版)によれば、次のように解説してある。「教科の枠をこえ特定の主題にそって総合的に学習を組織する教育課程・方法。具体的な課題や体験に即して調査や討論などの探求的な活動を発展させ、暗記中心の知育とは異なる生徒の生活や興味に根ざした学習を行うことができる。…」この総合学習が、現在、小学校で週3時間程度、中学校で週2時間程度導入されつつあり、高校でも2003年度の1年生から実施されることになっている。そして、この総合学習の中で、平和教育や環境教育とならんで、同和教育(人権教育)を行なおうという動きがある。

ともすれば、一方的な正解の押し付けに陥りがちな同和教育のありかたを反省し、生徒自らが主体的に人権・差別問題を考え、教師も生徒の疑問に正面から答えていこうというなら、十分に意味がある。しかし、それは、言うは易く行なうは難しだ。

私も大学で同和教育を担当し、学生に自由闊達に議論し、自分なりの問題関心をもってもらおうと努力しているのだが、なかなか急所を突いたレポートが出てこない。あるいは、討論しても思い切った議

論にならない。もちろん、私の教育技量に問題がある点は認めるが、最大の壁は、人権教育の啓蒙主義=正解注入主義が、学生に染み付いていることである。長いあいだ人権をめぐる「正解」の山に取り囲まれていると、自分なりに疑問を掘り下げて、納得できる答を見出すという道筋をとることができず、先生の教えてくれる正解を消化不良のまま飲み込む癖がついてしまっているようである。

一問一答式入門書の害悪

この30年来、数々の一問一答式の部落問題の入門書を目にしてきているが、私自身納得できないようなものが多く、まして、それでは一般の人たちを説得できようはずがない。

たとえば、同和問題をめぐる疑問として、同和関係の公共料金(家賃や浴場)が安いということがよくいわれる。こうした政策を、一問一答式の入門書は、多くの言葉を費やして擁護している。いわく、同和地区の貧困は差別の結果生まれたものであって、その差別を解消するための低家賃であり、ただの低家賃政策ではない。闘いの結果得られた低家賃政策であって、自ら行政と闘っていない一般の人が同じことを要求するのはおかしい、等々。しかし、たとえば、京都市内の同和住宅が建てられたのは、いま

だ多くの部落住民が失対労働（日当が240円であったところから、ニコヨンの俗称が生まれた）で貧しかった時期である。それでも、日当の3日分くらいは家賃に払うべきだろう、貧しくともそれが人間としてのプライドだ、として決まったのが月額800円という家賃であった。当時としては、かなりの負担だったと思う。ところがその後、高度経済成長の時期をくぐり、30年以上を経て地区の生活が相当向上したにもかかわらず、家賃徴収の事務費にも足りない低額に据え置かれてきたのは問題で、当初の精神でいえば、2万や3万の家賃を払っていてもおかしくなかったわけである。それが、いつの間にか、安ければ安いほど良い、おいしいことはいいことだ、といった無節操な同和政策になったことは、その後の差別解消に、マイナスに作用した。

しかし、私の知る同和教育や、大人向けの社会同和教育の場では、多くの場合、今いったような批判は、同和问题への無理解として片付けられてきたように思う。そういう、正解の一方的な押し付けが、総合学習の中で繰り返されるのであれば、仏を作っ て魂入れずといわなくてはならない。もちろん、同和事業がおおむね終結する事態を迎えて、いまさら低料金を問題にする気遣いはないだろうけれども、差別問題に正面から答える気構えが教えるほうになれば、新たな人権教育も、正解注入式の教育に陥ってしまう危険性は多いにある。

難問を受けて立つ

人権・差別に関連して、生徒に聞かれても答に窮する難問が数々ある。たとえば、昔よくあった言説に「部落は顔でわかる」というのがある。正解注入型の同和教育では、正解・不正解どころか、設問自体が差別発言として学校中大騒ぎになりかねないところである。しかし、本当に間違いか？

この問題については、昔懐かしい思い出がある。学生時代、大学の近くの部落解放同盟の支部で活動していたときに、「部落は顔でわかるか？」について、青年部で話題になったことがあるのだ。そして、

10人ほどいた青年部全員が、「顔でわかる」と言い出したのである。そんなはずないと言い張ったのは、私1人だった。がんばる私に、青年たちはさも自慢げな面持ちで、わからないのは素人だと言わんばかりに、「わかる」と言って譲らないのだ。

今にして思えば、どちらが一概に正しいともいえない。私がいうのは、駅のプラットホームにたくさんの方がいて、その中に数人の部落出身者が、ある人はネクタイをして、ある人はセーターにジーパンをはいて混じっていたら、全員を指摘できるか。それはできないでしょう、ということである。

しかし、理屈ではそのように否定してみても、青年たちの言うように、部落にはよその人とは違ったある種の特徴、あるいは空気があったことは間違いない。たとえば、東京で狭山裁判の集会などがあって、バスで東京に行くあいだ、高速道路のサービスエリアで集会参加者に遭遇したときに、労働組合などのグループと部落解放同盟の一行とは、あきらかに雰囲気が違う。部落の集団は、若い人は、ヤンキー風のパンチパーマをかけて、肩で風を切って歩いたり、おっちゃんおばちゃんたちは肉体労働者が多いせいか顔は黒いし、メガネをかけている人は少ない。おまけに、その集団が大声でしゃべったり、下品な冗談を飛ばしたりするものだから、はた目にはさうとう浮き上がっているのである。というような実態が、青年たちをして「部落は顔でわかる」といわしめたものだったのだろう。（なお今は、部落の青年の風俗はまったく変わってしまい、一般の青少年に溶け込んでしまっている。私の知る京都に限っていえば、「部落は顔ではわからない」という状態である。部落解放センターに出入りする部落の10、20歳代の若い人の表情が、曇りなく明るいを見て、私はこの30年間の部落と部落をとりまく状況の変化を痛感する。）

抑圧でなく納得を

青年たちが、こうした体験の中で「部落民は顔でわかる」と思っているのだから、世間も「部落は顔

でわかる」と考えて不思議はない。それを、「部落は顔でわかる」というのは差別です、と教えたところで、何の説得力があるだろうか。そこで考えるべきは、どうして顔でわかると感じるかということであり、また見た目が違っている原因をなるほどと納得できるだけの説明ができるかということである。たとえ「部落は顔でわかる」という結論であっても、「う～ん、なるほど」といえるだけの説得力があれば、差別をなくす役には立つ、と私は思う。それとは逆に、充分説明できないことへの無力感や恐怖感から、教える側が生徒たちの素朴な疑問を抑圧したら、彼らは、差別問題について考えることをやめてしまうだろう。かなり教える側の力量を問われるわけである。

ちなみに「...顔でわかる?」について、正面から答えようとする試みは、私が活字で見て知るかぎり、西元宗助氏（京都における同和教育の先覚者）の『被差別部落と教育と宗教』（広池学園出版部、1985年、61-63頁）で、わずかになされているにすぎない。氏は、「もし、部落外の人とは人相がよくて、同和地区の人とは人相が悪いと、こういうのであれば、それは、はななだしき差別偏見であります。だけど、もし、同和地区に人相の険しい人が比較的多いとおっしゃるのであれば、遺憾ながら、それは、あるいはそのような場合があるかも知れぬと思うのでありま

す。」としたうえで、自分のシベリア抑留体験を語り、酷い圧迫が人間の表情を険しいものにするると述べておられる。答の是非はここではおくとしても、違いの存在をみとめ、それに理解可能な説明をしようとされている熱意は伝わってくる。

最近の同和教育では、部落と部落外は違ってないということ強調しがちであるが、実際には、さまざまな歴史的経過から、違いは存在するのである。最近でこそ、テレビなどのマスコミュニケーションの発達で、日本中が均質化されているけれども、一昔前までは、部落の言葉が近隣の一般地区とは違っていることがよくあったし、相続の習慣や宗教の違いなど、部落外から違った目で見られる実態は、多方面にわたる。そうしたことに目をつぶるのではなく、合理的説明に努力することが重要である。

ただし、聞く側の腑に落ちるような説明をするのは、なかなか至難のわざである。教える側に、相当の勉強と人間に対する深い理解が必要だろう。私自身、そんなものをいかほども持ち合わせていないので、以上のような問題提起をしてはみるものの、実際にはその困難さに立ちどまってしまふ。しかし、総合学習としての人権教育を取り組むつもりならば、従来の悪しき啓蒙主義から脱却しなくてはならない。それができなければ、総合学習に乗り出す意味はない。

会員募集及び継続のお願い

従来のありきたりであたり障りのない言説を廃し、本音で語る活動をめざして、昨年7月に京都部落問題研究資料センターは発足しました。これまでに多くの皆様が会員になってくださり、活動を支えていただいています。今後も、資料センター通信「Memento」やホームページをつうじて、部落問題・差別問題のさまざまな情報を提供していきます。

是非、引き続き会員としてこれらの活動を支えていただきたくお願いいたします。

会員特典：資料センター通信「Memento」（年4回発行）の送付
所蔵図書の出し（郵送による貸出しも行います）

会費：個人会員 年額1口 4,000円

団体会員 年額1口 8,000円

備考：会費送金の際は、同封の郵便振替用紙（番号00930-4-16404）をご利用ください

教科書における部落問題記述について (2002年度版)

外川 正明

現在、来年度から使用される教科書の採択に向けて各地で公開展示が行われています。今回の教科書、特に社会科教科書の改訂をめぐるのは、日本の戦争責任やアジア諸国への侵略の事実をどのように記述しているかをめぐり、検定制度も含めて、今までないほどの大きな問題となっています。さらには、こうした中で、各地の教育委員会がどのような観点からどの教科書を採択するかをめぐっても重大な局面にあります。

本論では、このことについて直接ふれるわけではありませんが、今回の改訂された教科書における部落問題の記述について、主に「部落の起源」にかかわる近年の部落史研究の深まりが教科書の記述にどのように反映されているのかを検討することにします。なお、小学校での歴史学習を扱う6年社会科の教科書は、今回ほとんど変更がありません。というより、実は既に前回の2000年の改訂で、大きく変更されていました。その変更点については、拙著(『部落史に学ぶ』,解放出版社刊,2001年)で詳しくふれていますので、それを参照していただくことにして、ここでは、中学校社会科歴史分野の教科書について見てみることにします。また、本稿では現在公開中の8社の見本の記述を参考にしたことをお断りしておきます。

中世被差別民とけがれ

まず、中世の被差別民の存在についてですが、従来より、「河原者」と呼ばれた人々が「身分差別」を受けていたことが、3社の教科書に記述されていました。今回の改訂では、記述量の多少はあっても8社全ての教科書が、差別を受けながら庭づくりや芸能を発展させてきたことを記述しています。中には、「けがれと河原者」というコラムを設け、

以下のように記述している教科書もあります。

「現在は、よごれることをけがれといいますが、むかしは天変地異・死・病気・火事・犯罪などをけがれといいました。平安時代から、けがれをおそれる観念が強まりました。そのため、けがれを清める力をもつ人々を必要としましたが、同時にそれらの人々を異質な存在として差別しました。河原者とよばれた人々は、死んだ牛馬から皮を取ってなめすことや、井戸掘り・庭園づくりなどを手がけていたため、差別されました。これらは、必要な仕事でありながら、死や大地にかかわるためにおそれられたのです。河原者からは『天下第一』と賞賛された善阿弥をはじめとして、庭園づくりの名手ができましたが、それとても、差別されたのです。」と「けがれ」の解釈も含め、かなり詳細に記述しています。

「けがれ」そのものを取り上げて記述しているのはこの1社ですが、中世における差別の有り様とその意味を、教育の場でどのように学習として展開していくのか大きな課題となります。

近世の身分制と被差別民

次に、部落史の見直しにかかわる中心部分である「近世政治起源説」にかかわる部分を見てみましょう。従来、ほとんど全ての教科書が「身分制度」あるいは、「士と農工商」とタイトルをあげ、「幕府は、士・農工商の身分の下にえた・ひにんという身分をおいた」「民衆を分裂させて支配」「不満をそらす役割」など、民衆分断支配のための被差別身分の設置という観点から記述されていました。

しかし、今回の改訂では、「農民・町人以下の身分とされたのが、えた・ひにんである。」「えた・ひにんなどのきびしく差別されてきた身分の人々もいました。」「『えた』や『ひにん』などとよばれ

る身分がありました。」あるいは、「低い身分とみなされました。」と記述されています。従来通り「おいた」と記述しているのも3社ありますが、多くが「幕府がおく」という記述を削除しています。また、「土農工商」という身分序列を記述しているのは2社、目的を分裂支配と記述しているのは4社に限られ、6社は、「社会や文化への貢献」という観点から被差別民の仕事をこれまでより詳述するようになっています。

こうした記述の変更から、次の三点が特徴としてあげられることに気づきます。

第一は、「身分の設置」あるいは、「身分の創出」と受け止められる言葉を避けて、客観的に「存在した」と記述するようになったことです。

第二に、従来の「土農工商穢多非人」という身分序列は真実なのかという研究からの疑問の提起が反映され、すでに述べたように、6社はこの身分序列を記してはいませんし、4社が「農民」を「百姓」に変更しています。

第三に、被差別民の生業を記すことで、「差別＝貧困」という考え方に陥らないように記述している出版社が多く見られるということです。

これらは、「分裂支配のため、身分をつくり、貧しい生活を強いた」といういわゆる「近世政治起源説」を構成していた3つの要素に対する近年の部落史研究からの疑義の提起が大きく反映されているといえるでしょう。ただ、連続面や非連続面を含めた中世の差別との関連について述べていないため、多くの教科書が、「部落の起源」について明言することを避けた記述となっているといえるでしょう。

部落史を学ぶ意味の再確認を

この他にも、近世後期、明治期、大正期、そして現代と教科書には、それぞれ部落問題についての記述がなされているわけですが、紙数が尽きてきましたので、本稿ではふれることができないことをお許しください。

さて、「近世政治起源説」が多くの研究者によっ

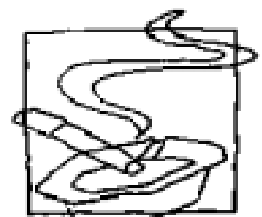
て否定されている今日、それを反映して教科書の記述も変更されてきていることを述べてきたわけですが、ここで私は、以下の二点について述べておきたいと思います。

第一に、部落問題が教科書に記述されているということは、同和教育にとってたいへん大きな意義を持っているということです。1974年に初めて教科書に記述されて以来、実際はどうであれ、全国全ての学校で、全ての子どもたちが部落問題について学ぶ機会が保障された。つまり部落問題が学習すべき必須の内容として認知されたということです。その意味では、教科書が部落問題をどのように記述しているかに対して、私たちは厳しい目を向けていかなければなりません。現に今回の改訂では、渋染一揆にも、米騒動にもいっさいふれず、水平社についてもほんの僅かしか記述しないといった民衆の運動を徹底して記述しないという姿勢を示した教科書もあります。

第二に、しかし、もとより私たちは、「教科書を教える」のではありませんし、教科書記述のみで授業を進めるわけでもありません。同時に、教科書に書かれていることがすべてでもありません。「教科書ははっきり書いてくれない」とか「不十分だ」という批判は、批判としても、「教科書に全てを求めろ」という姿勢は、教育における主体性とは無縁のものでしょう。問題は、私たちが教科書の記述を手がかりに、何をどのように子どもたちに教えていくのかを考える教育の立場としての姿勢の確立にあります。

教育は、研究の成果を平易にして教えればよいというものでは決してありません。部落史を通して子どもたちと何を学び合っていくのかという部落史学習の目的を再確認することから、研究の成果に学び、教科書記述を吟味し、具体的な教育実践として展開することが、教育に求められていると思います。

(とがわ まさあき/京都部落問題研究資料センター運営委員)



映画紹介

J S A JOINT SECURITY AREA

金 東 秀

数十年(十数年ではない)来、多数の国民が飢えているのに、外国に援助を乞う以外何もできない指導者と、権謀術数をつくして権力の座についた後は、国民の利益より個人の榮譽をと行動し、某平和賞を獲得した大統領との会談があった昨年(2000年)、韓国では、映画『J S A』(パク・チャヌク監督)が、空前のヒットをしたという。『J S A』は、観客動員数で『シュリ』を超えたとの謳い文句で、この5月から日本でも公開された。

映画などというものは、休日の前夜にレンタルビデオを借りて観るという久しい習慣があったが、人に薦められて昨秋、『スペースカーボーイ』を映画館で観たところ、たいへん面白かった。それ以来、話の種にもなることであるし、話題の映画はなるだけ劇場で観るようにしている。そんなわけで、『J S A』を観にいったが、『シュリ』とは違いこれはなかなかいい映画だった。

話の概要はこういうものだ。南北朝鮮の軍事境界線にある共同警備区域(J S A = 通称「板門店」)で起きた南北兵士による殺傷事件の捜査に、中立国監督委員会のスイス軍女性将校で、韓国人の父親をもつソフィーが派遣される。互いに食い違う南北の兵士の陳述。捜査の過程で浮かび拳がって来たのは、歩哨所に詰めていた南北兵士の親密な交流の事実だった.....。

たしかに、北朝鮮の兵士が韓国兵より太っているのはどうみてもおかしいし、北の兵士が食用ではなく、愛玩のために犬を飼っているという設定には、いささかの違和感もある。しかし、それはそれ、映画である。フィクションである。そう考えれば、話についていけないわけではない。

それにしても、板門店にしる、北の兵士にしる、いつときの韓国側の描写に顕著だった、荒唐無稽さ

というものがなかった。つまり、画面が白けるということがなく、十分画面に見入ることができた。これは、韓国側の北朝鮮に対する理解が、格段に進んでいるということを感じさせる。

韓国での北朝鮮理解が進んだのは、私見によれば、1991年に『月刊朝鮮』が新年号別冊付録で、北朝鮮からの亡命者の証言を中心に北朝鮮の実情を報じて以来のことだと思われる(日本語版は、黄民基訳『北朝鮮 その衝撃の実像』,講談社刊,1994年)。これは、いわば一つの事件であり、それまでの、同族としての北朝鮮、共産主義国としての北朝鮮といった見方から、事実に基づいて北朝鮮の実像を見る、ということがようやく韓国でも始まったといえよう。

それから10年。数多くの亡命者が、北朝鮮から韓国を目指すという流れが日常化している(それでも、時に韓国から北朝鮮に亡命する、という事例があるのが、朝鮮半島の不思議の一つである)。そうした亡命者の証言により、韓国の北朝鮮に対する認識は、格段に進んだ。在日朝鮮人が、北朝鮮に「帰国」した親族を通して、40年前から認識していたことを、今にして韓国でも共有できるようになった、ともいえる。

『J S A』の話の内容は、現実にはありえない南北兵士の人間的な交流という、まったくのフィクションである。しかし、話の展開に、それなりのリアリティーを感じることができれば、フィクションによってこそ浮き彫りにできる真実というものがある。この映画は、巧みな話の展開で、なるほどこういうことがあってもおかしくないなあ、という気にさせる。数多くの笑える場面があり、映画そのものを十分楽しめた。2時間近い映画を観終わって後、筆者は、なぜか涙が溢れてきてしかたがなかった。

(きむ とんす/会社員)

収 集 図 書 (2001年4月～6月受入)

あいつぐ差別事件 1999 (大阪府同和事業促進協議会刊, 1999.3)

朝田善之助全記録 28～30,32,34～46 (朝田教育財団刊, 1996.10～2001.4) : 各1,000円

新しい人権教育を目指して 大学は人権教育にどのように参加できるのか (東京学芸大学刊, 2001.3) 《2000年度「文部省ファカルティ・ディベロップメント推進経費を活用した東京学芸大学における人権教育の課題と展望についての学際的研究・研修プロジェクト」報告書》

あんにょんキムチ (松江哲明著, 汐文社刊, 2000.7) : 1,300円

石川さんは無実だ 狭山裁判の真相 (狭山事件弁護団 [ほか] 編刊, 1976.8)

一緒に考えてみませんかこれからの人権教育 (反差別国際運動日本委員会編刊, 1999.2) : 1,000円

噂の真相 266号 (噂の真相刊, 2001.1) : 470円

描かれた「異国」「異域」 朝鮮、琉球、アイヌモシロの人びと (大阪人権博物館編刊, 2001.4) 《特別展展示解説図録》

近江国愛知郡川原村枝郷皮田村閩連文書 (滋賀県同和問題研究所編刊, 2001.3) : 3,000円

[大阪市教育センター] 研究紀要 平成12年度第2巻 (大阪市教育センター刊, 2001.3) 《第144号「環境教育からみた学校ピオトープの整備、活用の現状と課題 『学校ピオトープの活用等に関する実態調査』から」, 第145号「人権教育の内容と方法に関する研究3 人権教育を考える」》

大阪市同和教育年表 10 1996年～1997年 (大阪市教育センター刊, 2001.3) 《研究報告13》

大阪市における今後の外国籍住民施策のあり方について (提言) (大阪市外国籍住民施策有識者会議 [編], [大阪市] 刊, 1997.7)

大阪の同和问题 第106号 (大阪市同和问题研究室刊, 1967.11) 《複写》

変えなきゃ意識変わらなきゃ私たち (桑名市人権センターはーとふる刊, [2001])

川の生活史 (野洲町立歴史民俗資料館編刊, 2001.4)

《平成13年度春期企画展図録》

境界人としての「部落問題」 (森口兼二著, 反差別国際連帯解放研究所しが刊, 2001.2) : 500円

教材資料集「...を5分で学習する」 参加型学習の展開と、「人権」を考える授業 (教材資料集「...を5分で学習する」編集委員会編, 長崎県部落史研究所刊, 2001.6) : 1,500円《加除式教材資料集》

共生社会の現実と障害者 21世紀を生きる障害者のために (生瀬克己著, 明石書店刊, 2000.8) : 2,000円

「京都市男女共同参画計画」への提言 自立した個人が多様な生き方を選択できる社会の構築に向けて ([京都市男女共同参画懇話会] 編, 京都市文化市民局人権文化推進部男女共同参画推進課刊, 2001.3) 《京都市男女共同参画懇話会答申》

京都市の文化財 第13回 新指定の美術工芸品・有形民俗文化財 (京都市歴史資料館編刊, 2001.5) 《企画展図録》

嫌われ、恐がられ、いやがられて 障害児差別と共に25年 (福井達雨著, 明治図書出版刊, 1976.9)

キリシタンと部落問題 (日本カトリック部落問題委員会刊, 2001.4)

1997年度高校同和教育資料集 第34集 高等学校の同和教育をすすめるために (京都府立高等学校同和教育研究会編刊, 1998.3) : 800円《講演: 吉田栄治郎、中島智子、康玲子、朝治武、外川正明》

1998年度高校同和教育資料集 第35集 高等学校の同和教育をすすめるために (京都府立高等学校同和教育研究会編刊, 1999.3) : 800円《講演: 渡辺俊雄、住本健次、安田直人、仲林弘次、鍋島祥郎》

1999年度高校同和教育資料集 第36集 高等学校の同和教育をすすめるために (京都府立高等学校同和教育研究会編刊, 2000.3) : 800円《講演: 上杉聰、桂正孝、木村一雄、仲尾宏、小林丈広、糺秀章》

2000年度高校同和教育資料集 第37集 高等学校の同和教育をすすめるために (京都府立高等学校同和教育研究会編刊, 2001.3) : 800円《講演: 平沢安政、池田久美子、ひろたまさき、宇野豊、金慶子、吉田智弥》

国際化に対応する「大阪らしさ」を生かした総合的な学

- 習 コンセプトとその実践的展開** (大阪市教育センター刊, 2001.3) 《研究紀要第148号》
- 国際人権規約と人間解放** (和島岩吉編, 解放出版社刊, 1977.8)
- 第2期国際身分制研究会報告書** (国際身分制研究会編, 部落解放・人権研究所刊, 2001.3) 《部落解放・人権研究所・近現代身分制及び身分の国際比較調査研究事業》
- 古代天皇制を考える 日本の歴史第08巻** (大津透, 大隅清陽, 関和彦, 熊田亮介, 丸山裕美子, 上島享, 米谷匡史著, 講談社刊, 2001.6) : 2,200円 《千年以上にわたり存続する天皇制の本質とは何か》
- ことばと国家** (田中克彦著, 岩波書店刊, 1981.11) : 660円 《国家語成立の過程で作り出されることばの差別の諸相》
- 子どもの権利条約とマイノリティ 朝鮮学校・外国人学校の子どもたち** ([出版者不明], 1999.10) 《教育シンポジウム報告集》
- 今後の同和行政推進にあたっての資料集 1997年** (大阪府同和事業促進協議会刊, 1997.7)
- 「在日」のはざままで** (金時鐘著, 平凡社刊, 2001.3) : 1,500円
- 差別撤廃と人権確立を求めて 3 国際人権規約連続学習会(第101回~第150回)報告集** (国際人権規約大阪府民会議, 世界人権宣言大阪連絡会議, 部落解放研究所編刊, 1995.7)
- 「差別落書き」を考える 「部落差別深刻」論批判** (奥山峰夫著, 部落問題研究所刊, 1994.2) : 680円
- 三昧聖の研究** (細川涼一編, 碩文社刊, 2001.3) : 11,000円
- 虐げられた人びとの復権** (花園大学人権教育研究室編, 批評社刊, 2001.3) 《執筆者: 井桁碧、笑福亭伯鶴、近藤美津枝、慎英弘、浜田寿美男、林信明、吉田智弥》 : 1,800円
- 社会運動関係雑誌目録** (京都大学人文科学研究所刊, [197-]) 《アメリカ議会図書館作成の日本関係資料マイクロフィルムのうち、京都大学人文科学研究所がコピーを購入した61リール分に関する目録》
- 自由と解放へのあゆみ 松本員枝聞き書き** (松本員枝聞き書きの会編, ドメス出版刊, 1980.5)
- 女性史と出会う** (総合女性史研究会編, 吉川弘文館刊, 2001.4) : 1,700円
- 人権からみた文学の世界 明治篇** (川端俊英著, 部落問題研究所刊, 1998.5) : 1,300円 《「十三夜」「照葉狂言」「みだれ髪」「不如帰」「重右衛門の最後」「火の柱」「破戒」「駅夫日記》
- 人権からみた文学の世界 大正篇** (川端俊英著, 部落問題研究所刊, 2001.4) : 1,300円 《「雁」「こゝろ」「貧しき人々の群」「清作の妻」「部落の娘」他》
- 人権啓発研究集会討議資料 第14回** (第14回人権啓発研究集会実行委員会刊, 2000.2)
- 第14回人権啓発研究集会フィールドワークのしおり** ([14回人権啓発研究集会実行委員会], 2000.2)
- 人権講座講演録 1999年度** (世界人権問題研究センター編刊, 2001.3) 《田端泰子、仲尾宏、薬師寺公夫、秋定嘉和、福田雅子、鄭早苗、下坂守、西井正弘講演》
- 人権 ゆかりの地をたずねて 京都市内版** (京都人権啓発推進会議刊, 2001.3)
- 男女共同参画に関する市民意識実態調査報告書** (京都市文化市民局人権文化推進部男女共同参画推進課刊, 2001.3)
- 男女共同参画に関する市民意識実態調査報告書 ダイジェスト版** (京都市文化市民局人権文化推進部男女共同参画推進課刊, 2001.3)
- 中近世放浪芸の系譜** (渡邊昭五著, 岩田書院刊, 2000.2) : 18,800円
- 調査季報 145 特集 都市生活と動物** (横浜市企画局政策部調査課編刊, 2001.3) 《「肉食文化と生命尊重 日本における肉食の歴史と人権の視点から」(吉田拓郎著)所収》
- 東寺領垂水庄 悪党の時代** (吹田市立博物館編刊, 2001.4) 《平成13年度特別展展示図録》
- 同和行政の新たな展開をめざして 大阪府同和行政基本方針 大阪府同和行政推進プラン** (大阪府企画調整部同和对策室調整課刊, 1997.3)
- 同和・人権学習を基軸においた総合的な学習 構想とその展開** (大阪市教育センター刊, 2001.3) 《研究紀要第147号》
- 同和对策関係資料 1997年度版 上, 下巻** (大阪府同和事業促進協議会刊, 1998.3)
- 層場文化 語られなかった世界** (滋賀県教育委員会, 反差

別国際連帯解放研究所しが編, 創土社刊, 2001.3)

ドメスティック・バイオレンスの解決に向けて(京都市文化市民局人権文化推進部男女共同参画推進課刊, 2001.3)

長岡京市の景観(長岡京市教育委員会刊, 2001.3)《長岡京市史資料集成3》

ナチ独裁下の子どもたち ヒトラー・ユーゲント体制(原田一美著, 講談社刊, 1999.6):1,600円《子どもたちのナチ化は成功したか》

日本史総合年表(加藤友康[ほか]編, 吉川弘文館刊, 2001.5):12,600円

日本歴史の中の被差別民(奈良人権・部落解放研究所編, 新人物往来社刊, 2001.2):2,000円《執筆:網野善彦、宮田登、朝尾直弘、秋定嘉和、細川涼一、辻本正教、藪田貫》

陪審制度Q & A(陪審制度を復活する会刊, 2001.3)

ハイスクール白書三重 1995年度三重県高校生学力生活実態調査報告書(三重県高校生学力生活実態調査委員会編, 大阪市立大学人権問題研究センター刊, 2000.9)

東九条マダン報告集 第8回(第8回東九条マダン実行委員会編刊, 2001.3)

ひとのみち 2000年度版 人権学習記録と資料(佛教大学人権問題委員会編刊, 2001.3)

ひめゆり平和祈念資料館公式ガイドブック(沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会刊, 1989.12)

ヒューマン・アルカディア特別展集 第3号(福岡県人権啓発情報センター刊, 2001.3)

琵琶盲僧 永田法順 現代に響く四絃の譜(川野楠己著, 日本放送出版協会刊, 2001.2):1,600円《鎌倉時代からの伝統を守って檀信徒の家々を訪ね加持祈祷を続ける》
貧農史観を見直す(佐藤常雄, 大石慎三郎著, 講談社刊, 1995.8):660円《年貢率, 生産力のデータを検証し, 江戸期の「農民貧窮史観」を覆す》

福田村事件の真相 第1集 歴史の闇にいま光が当たる(千葉福田村事件真相調査会編刊, 2001.3):500円

武士の成長と院政 日本の歴史第07巻(下向井龍彦著, 講談社刊, 2001.5):2,200円《古代から中世への過渡を国家の軍事力編成という視点で描く》

豚の文化誌 ユダヤ人とキリスト教徒(クロディーヌ・ファール=ヴァサス著, 宇京頼三訳, 柏書房刊, 2000.11):

3,800円

部落解放研究京都市集會 [資料] 第31回(部落解放研究京都市集會実行委員会事務局刊, 2000.2)

部落解放研究第15回京都府集會討議資料(部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会刊, 2001.6)

部落解放研究全国集會討議資料 第34回(部落解放研究第34回全国集會中央実行委員会刊, 2000.10)

部落解放同盟京都府連合會定期大會議案書 第48回(部落解放同盟京都府連合會編刊, 2001.4)

部落解放同盟奈良県連合會定期大會 第40回~第42回([部落解放同盟奈良県連合會]編刊, 1998.4~2001.4)

部落史学習への誘い(鈴鹿市部落史作成委員会編, 鈴鹿市教育委員会刊, 2001.6)

部落史に学ぶ 新たな見方・考え方にたった学習の展開(外川正明著, 解放出版社刊, 2001.4):2,000円《これからの部落史学習の進め方と新しい視点を示す》

部落問題と原爆の町 ふくしま百年のあゆみ(田阪正利著, 部落問題研究所刊, 2000.5):1,800円

マンガンばらだいす 鉱山に生きた朝鮮人たち(田中宇著, 風媒社刊, 1995.9):1,780円《京都丹波山中に建つ「丹波マンガン記念館」。鉱山に生きた在日一世のたくましく、したたかな生きざま》

道長と宮廷社会 日本の歴史第06巻(大津透著, 講談社刊, 2001.4):2,200円《権勢と美をきわめた王朝群像》

漢川を、歩く(登尾明彦著, みずのわ出版刊, 2001.1):1,200円《朝鮮と日本の出会うところ。》

身分論から歴史学を考える(塚田孝著, 校倉書房刊, 2000.4):3,800円

みんなの幸せをもとめて 同和問題をはじめ人権問題を学ぶために(東京都教育庁生涯学習部振興計画課編刊, 2001.3)

むこうにみえるは([改進地区史研究会]編刊, 2001.3)《改進地区の歴史・竹田の子守唄・改進生活白書・改進タウン・ウォッチング》

明治新聞雑誌文庫の思い出(西田長壽著, リキエスタの会刊, 2001.4):1,300円

矢田同和教育推進協議會總會議案書 第32回(矢田同和教育推進協議會編刊, 2001.5)

四日市の部落史 部落史学習地域資料1 部落史学習の新しい展開(四日市市教育委員会編刊, 2001.3)

収集逐次刊行物目次 (2001年4月～6月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から編集部判断でピックアップしました～

明日を拓く 第37号 (東日本部落解放研究所刊, 2001.1) :

1,000円

特集 部落・現地を訪ねて学ぶ その2

群馬県 世良田事件の地を歩く 松島一心・石田貞 / 浅草北部の部落とその周辺 歴史を中心に 藤沢靖介・島村匡平 / 長野県浅科村 フィールドワークのために 斎藤洋一 / 栃木県の大平町榎本を歩く 河田源治・石田貞

近世政治起源説と身分論に関する覚書 2 藤沢靖介

あすばる 第5号 (甲賀郡人権センター刊, 2001.5) :

200円

歴史を振り返り人権の世紀を 金井英樹

自らが主体的に学ぶ～差別落書きを契機として～ 吉田賢作

きまぐれ書評

『松本サリン事件の罪と罰』(河野義行, 浅野健一著) / 『近江歴史回廊 近江東海道』(淡海文化を育てる会編) / 『邪魔』(奥田英朗著) / 『学校を基地にお父さんのまちづくり』(岸裕司著)

IMADR-JC通信 112 (反差別国際運動日本委員会刊, 2001.5) :

500円

本の紹介 『死の影の谷間から』(ムミア・アプ=ジャマール著)

ウイングスきょうと 第43号 (京都市女性協会刊, 2001.4)

図書情報室新刊案内

『小泉郁子の研究』(樽松かほる著) / 『35歳からの女のからだノート』(堀口雅子著) / 『ジェンダー・フリーの絵本』全6巻 / 『もうひとりで悩まないで! 教師・親のための子ども相談機関利用ガイド』(小林正幸, 嶋崎政男編)

ウイングスきょうと 第44号 (京都市女性協会刊, 2001.6)

図書情報室新刊案内

『「仕事」, 「子供」, 「両立」ってどうやんねん?』(大谷由里子著) / 『DVを理解するために』(COSMO編) / 『でも元気!』(橘由子著) / 『ガートルード・スタイン 20世紀文学の母』(ウィルソン夏子著)

大阪の部落史通信 25 (大阪の部落史委員会刊, 2001.3)

東遺跡の中世集落跡 獣骨廃棄土抗とかかわって 前川

浩一

弘済会と救済事業研究会 里上龍平

岡山部落解放研究所報 第217号 (岡山部落解放研究所刊, 2001.3) :

100円

図書案内 『破天 一億の魂を掴んだ男』(山際素男著)

解放教育 401 (解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.5) :

690円

特集 今、若い教師たちがつくる人権教育 日教組第50次全国教研・人権教育分科会より

解放教育おりおりの断章11 「学力保障」が問われているもの 川向秀武

資料 バックナンバーにみる『解放教育』誌の歩み 項目篇 301号～400号

解放教育 402 (解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.6) :

690円

特集 学力をゆたかに育てる授業づくり 言語・思考力を中心に

追悼・奈良本辰也先生 巨匠・奈良本先生との別れに 中村弘三

解放教育おりおりの断章 最終回 子どもたちの現実を見据えることから 川向秀武

解放教育 403 (解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.7) :

690円

特集 総合学習でめざす学力とは

調査に見る 素顔のいまどき高校生 1 高校生の心と進路 鍋島祥郎

書評 『進化する高校 深化する学び 総合的な知を育む松高の実践』(菊地栄治編) 矢野裕俊

ディアスポラと部落, そしてパラダイムの転換 野口道彦
フリースクールの蛸壺から 「誇り」ということをめぐって 武藤啓司

「多民族・多文化共生」をめざす国際理解教育 稲富進
アジアに背を向ける歴史教育 「新しい歴史教科書をつくる会」中学歴史教科書を読む(上) 小沢有作

解放研究しが リリアンス研究紀要 第11号 (反差別国際

連帯解放研究所しが刊, 2001.5) :

1,500円
特集 ライフヒストリー調査の方法と記述

- 語りを聞く方法 ライフストーリー・インタビューの方法論 桜井厚 / “物語”を創造する力 生活史聞き取りの意味 好井裕明 / 生活史の語りにおける記憶と私語りの主体覚書 山本哲司 / アイデンティティ以前 『被差別部落への5通の手紙』補遺 三浦耕吉郎 / ライフストーリー：FN君の半生 岸衛 / ナカノモンに込められたもの 田中政明
- 中上健次の路地と部落問題 野口道彦
- 月刊解放の道 207号**(全国部落解放運動連合会刊, 2001.4) : 350円
- 「広島市同教」の解散決定について 小松四郎
- 月刊解放の道 208号**(全国部落解放運動連合会刊, 2001.5) : 350円
- 部落解放運動の自己完結を現実の課題に 滋賀県からの報告 2下 滋賀県連書記局
- 月刊解放の道 209号**(全国部落解放運動連合会刊, 2001.6) : 350円
- 特集 NPO設立と地域住民運動
- NPO設立の意義と内容 丹波史紀 / NPOの実務と展望 丹波正史
- 風の便り 4号**(パラムの会刊, 2000.12) : 300円
- アイデンティティの問題と在日のこと、雑感～神奈川県教委の基本方針に関わって 山梨彰
- 「名前の自己決定権」か「民族性の回復」か 安田直人さんと山根俊彦さんの論争に触発されて 柚岡正禎
- 書評 『五体不満足』(乙武洋匡著), 『ごく普通の在日韓国人』(姜信子著) 理想のマイノリティ Youngmi Lim
- かわとはきもの 115**(東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2001.3)
- はきもの・ノート70 靴 / かのくつ 市田京子
- 靴の歴史散歩60 稲川實
- 関西学院大学人権研究 第5号**(関西学院大学人権教育研究室刊, 2001.3)
- 人と人を結ぶ太鼓 私のフィールドノートから 三浦耕吉郎
- 高等部における人権(同和)講座の改編 5年間を振り返って 古田晴彦
- 「四学長声明」(1990) 人権教育のための記録 湯木洋一
- 季節よめぐれ 第162号**(京都解放教育研究会刊, 2001.7)
- 人権啓発のターゲット 「人権問題に関する住民意識調査」から 福岡安則
- 西光万吉の思想について 吉田智弥
- 季節よめぐれ 第163号**(京都解放教育研究会刊, 2001.8)
- 同和地区児童生徒の学力における課題解決に向けて 畑利忠
- 揺れ動く在日韓国・朝鮮人の親の思い 金慶子
- 京都市政史編さん通信 第5号**(京都市市政史編さん委員会刊, 2001.3)
- 市村光恵市長小論(1) 白木正俊
- 京都市歴史資料館紀要 第18号**(京都市歴史資料館刊, 2001.3)
- 中世後期における鞍馬寺参詣の諸相 都市における寺社参詣の一形態 野地秀俊
- 明治三十年代の京都におけるトラホーム対策の展開について 村中博
- 書評 『八瀬童子会文書(叢書京都の史料4)』 川嶋生
- グローブ 25**(世界人権問題研究センター刊, 2001.4)
- 追悼 田畑茂二郎先生
- 天平文化の創造者 上田正昭
- 朝鮮通信使1 隠された前史 中世の交流 仲尾宏
- 洛北の里子と「私生児」 白木正俊
- 韓国人学生の読んだ日本の教科書 仲尾宏
- 「竹田の子守唄」 いまよみがえる暮らしのうた 福田雅子
- 荊冠旗 1114**(部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2001.3.26) : 300円
- 映画 「キャスト・アウェイ」(ロバート・ゼメキス監督)
- 荊冠旗 1115**(部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2001.4.9) : 300円
- 映画 「ショコラ」(ラッセ・ハルストレム監督)
- 荊冠旗 1116**(部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2001.4.23) : 300円
- 新刊紹介 『日本国憲法の逆襲』(佐高信編)
- 映画 「日本の黒い夏〔冤罪〕」(熊井啓監督)
- 藝能史研究 153**(藝能史研究会刊, 2001.4) : 1,600円
- 書評 『上方板歌舞伎関係一枚摺考』(荻田清著) 北川博子
- 紹介

『松竹百年史』(松竹株式会社編)/『近代能楽研究の先達 横山柚人の歳月』(坂田昭二著)/『徳川義直と文化サロン』(徳川美術館編)

研究所通信 272(部落解放・人権研究所刊,2001.4):100円

読んでみたい議論してみたい文献 『多摩ニュータウン発 市民ベンチャーNPO「ぼんぼこ」』(富永一夫著)

研究所通信 273(部落解放・人権研究所刊,2001.5):100円

読んでみたい議論してみたい文献 『企業と社会の新たな関わり方～地域社会の活性化に向けて』(関西経済連合会企業と社会委員会)

研究所通信 274(部落解放・人権研究所刊,2001.6):100円

読んでみたい議論してみたい文献

『部落の21家族 ライフヒストリーから見る生活の変化と課題』(部落解放・人権研究所編)/『鹿沼発 学校をつくる 地域をつくる 学校融合のススメ』(栃木県鹿沼市教育委員会編)

こべる 98(こべる刊行会刊,2001.5):300円

いま、私たちにとっての部落解放運動とは何か 住田一郎

こべる 99(こべる刊行会刊,2001.6):300円

奈良本辰也先生を追悼する 師岡佑行

こべる 100(こべる刊行会刊,2001.7):300円

住吉・フィラデルフィア2 私はそこで生きてきた すみだいくこ

佐賀部落解放研究所紀要 第18号(佐賀部落解放研究所刊,2001.3)

江戸時代前期の牛皮輸入 「かわた」「かわや」の役割に関連して 阿南重幸

特集 第19回九州地区部落解放史研究集会

支配領域を越える被差別民 信州の事例を中心に 斎藤洋一/皮革流通をめぐる人々 『筑前国革座記録』を手がかりに 竹森健二郎/長崎『犯科帳』にみる藩領を越えた被差別民の「移動」 梅崎純司/国東の武術道場をはじめとする被差別民の様々な移動 一法師英昭/被差別民の領外移動について 延岡藩内藤家文書 『萬覚書』に見る 稲森建蔵/旅する芸能者たち 中村久子/藩境を越える被差別民 全国の事例から 竹森健二郎

史料紹介 唐津領岸田家文書『物成取立帳』(その2) 浦川和紀子

佐賀部落解放研究所所報 第40号(佐賀部落解放研究所刊,2001.2)

小川助左衛門一門の墓地改修にちなんで 処刑役の更改 太田心海

佐賀県における地方改善事業の目的 地方改善事業の行政資料を読みなおす 古賀新二

雑学 下之庄歴史研究会紀要 第23号(下之庄歴史研究会刊,2001.5):800円

「茅原のとんど」と部落史寸考 仲林弘次

過去の偽造と日本のゆくえ 美化された「神の国」教科書 金井英樹

上熊野地の坤…… 新宮部落史年表作成に関わって2 研究課題と問題点 守安敏司

私の部落問題5 『天理大学民族差別発言・集団暴行事件』(その1) 小坂正一

自由闊達に生きた人々4 ときには異能者として 上野茂

『天狗草紙』研究ノート1 辻本正教

差別とたたかう文化 21(「差別とたたかう文化」刊行会刊,2001.6):400円

沖縄特集

沖縄史における糾弾権の欠落 金城実/宇井純の汚水処理見学記 高地耀子/座談会 沖縄に生きる人びと 宇井純・師岡佑行・溝上瑛/インタビュー 読谷村の活動 知花昌一/インタビュー 実質的返還の闘い=読谷村 小橋川清弘/「静かな夜を返せ」 嘉手納爆音訴訟ふたたび 矢守治彦

島の土がとけて流れる赤い水の恐怖 宇井純

21世紀を迎えて わが足跡2 土方鐵

狭山差別裁判 第328号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊,2001.4):300円

司法改革で刑事裁判はどう変わるか、どう変えるか インタビュー 鯉越溢弘

狭山差別裁判 第329号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊,2001.5):300円

再審と証拠開示1 証拠開示は世界の流れ インタビュー 指宿信

BOOK 『自白の心理学』(浜田寿美男著)

狭山差別裁判 330号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.6): 300円

解説 齋藤第三・柳田鑑定

再審と証拠開示 2 証拠開示を日本でどう確立するか インタビュー指宿信

BOOK 『幼稚園バス運転手は幼女を殺したか』(小林篤著)

月刊滋賀の部落 320号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.4): 400円

特別法の終結を前に 川嶋重信

動き出した同和事業終結への流れ 東大阪市でのとりくみ 稲垣泰平

月刊滋賀の部落 321号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.5): 400円

改良住宅の譲渡と公営住宅の一般化の今日的意義 川辺勉
なぜ、全解連滋賀県連は解散なのか(下) 西条誠司

月刊滋賀の部落 322号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.6): 400円

特別法の終結で同和を前提にした行政・教育・運動に終止符を 山口仁司

同和事業の終結と本音で話せるまちづくりをめざして
甲西町での同和行政終結の取り組みのその後 加藤伸造
真宗の教義と部落差別 1 「同宗連」の枠を越えて、自由な対話の時と交流の場の静かな拡がりを求めて 加藤西郷

人権教育 第15号(人権教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.6): 770円

特集 鳴動する人権学習グループ
書評

『ワークショップ』(中野民夫著) / 『「学び」から逃走する子どもたち』(佐藤学著) / 『人は海辺で進化した』(エレイン・モーガン著) / 『同性愛者として』(高取昌二著)

アジア太平洋地域の人権教育15 ティダックアパシー ジェファーソン・プランティリア

私たち自身のために立ち上がって 若者の参加権の概念と実践に関する研究 IPY ASEC / 国際ECPAT

人権教育研究 第9号(花園大学人権教育研究室刊, 2001.3)

小野信爾教授退任記念インタビュー

「西光万吉論」ノート 吉田智弥

仁保事件の自白過程 帝銀事件平沢自白分析のために 浜田寿美男

戦略としての カミングアウト レズビアン/ゲイのアイデンティティ・ポリティクス 堀江有里

恐怖の社会的機能と逆機能 八木晃介

福祉サービスにおける職業倫理のこと覚書 島崎義孝

アポリジニとスポーツ 中村樽

疎外と差別 八木晃介

水平社博物館研究紀要 第3号(水平社博物館刊, 2001.3): 1,000円

中上健次、人と文学 高澤秀次

全国水平社創立メンバー駒井喜作の生涯 仲林弘次

奈良 柏原から、京都 岡崎へ 山内政夫

木村吉輔の機織伝習場と柏原の自主的部落改善運動 舟津菊男

月刊スティグマ 68号(千葉県人権啓発センター刊, 2001.6): 500円

特集 今なおつづく「結婚差別」

ニューカマーの結婚とそこから発生する諸問題 小林洋子 / 障害者の結婚について 岡田潔 / 結婚するということ 上石恵 / 結婚から見た部落問題 鎌田行平

世界人権問題研究センター研究紀要 第6号(世界人権問題研究センター刊, 2001.3): 2,500円

群馬県水平運動における「融和主義」の路線について 三原容子

京柗座福井家相続一件 近世末期の都市における差別意識 山本尚友

京都東九条における朝鮮人の集住過程 1 戦前を中心に 宇野豊

在日韓国・朝鮮人の民族的アイデンティティについて
パイロット・スタディ リングホーファー・マンフレッド

天皇制と穢れ 源淳子

外国人の追放に対する手続的保障 自由権規約第13条に関する個人通報事例の分析 西井正弘

国際人権法の国内実施と国内人権機関の役割 日本における可能性 山崎公士

都市部落における尿尿処理問題の展開 市域編入期の大阪市南区西浜町の具体像 吉村智博

女子差別撤廃条約選択議定書手続規則 西立野園子

- 同朋大学佛教文化研究所紀要 第20号**(同朋大学佛教文化研究所刊, 2001.3)
 近世における宗教と人権 和田勉
- 同和教育 469**(全国同和教育研究協議会編, 2001.4): 150円
 ありのままの自分を認めて 自尊感情を育むために 1 北村年子
- 同和教育 470**(全国同和教育研究協議会編, 2001.5): 150円
 ありのままの自分を認めて 自尊感情を育むために 2 北村年子
 人権文化を拓く51 人種差別撤廃条約って、部落差別や同和教育に関係があります! 村上正直
- 同和教育論究 第22号**(同和教育振興会刊, 2001.3)
 差別と裁判 森井 【あきら】(講演)
 同朋運動と「還浄」問題 小武正教
 同朋運動と連研 課題の共有 大畠信隆
 宗教と社会 社会における宗教的信念 神戸修
 史料紹介 『願通寺文書』2
- 『同和はこわい考』通信 148**(藤田敬一刊, 2001.5.23)
 むずかしいですね、両側から越えるのは 福田典子
 「同和はこわい」をめぐる 福田典子
 紹介 奈良県部落解放同盟支部連合会「規約と運動基調」01.4.22
- なら解放新聞 第676号**(奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2001.6.25): 140円
 期待と直言・友人として 1 藤田敬一
 摂食障害ってなんやろ。2 すー
- はらっぱ 206**(子ども情報研究センター刊, 2001.4): 700円
 私の本棚
 『いま、子ども社会に何がおこっているか』(日本子ども社会学会編)/『オープン・ハート』(代々木忠著)
- はらっぱ 207**(子ども情報研究センター刊, 2001.5): 700円
 私の本棚
 『映画マニアの社会学』(熊沢誠、清真人、木本喜美子編著)/『晩年の子供』(山田詠美著)
- はらっぱ 208**(子ども情報研究センター刊, 2001.6): 700円
 私の本棚
 『いろいろな日』(ドクター・スース作)/『進化する高校 深化する学び』(菊地栄治編)
- ヒューマンライツ 157**(部落解放・人権研究所刊, 2001.4): 525円
 「日本軍性奴隷制を裁く女性国際戦犯法廷」取材して 川瀬俊治
 今月のおすすめ
 『企業倫理の力 逆境の時こそ生きてくるモラル』(K・プランチャー+N・V・ピール著)/『ハンディをもつ若者の進路』(小笠毅著)/『歴史/修正主義』(高橋哲哉著)/『情報公開法入門』(松井茂記著)/『グローバル化と女性への暴力 市場から戦場まで』(松井やより著)
 「他者」と出会うということ 『彼女の「正しい」名前とは何か~第三世界フェミニズムの思想』著者 岡真理さんに聞く 河昭子
 玲子さんの映画批評 「リトル・ダンサー」(スティーブ・ダルドリー監督) 炭鉱スト背景に共同体を描く 川西玲子
- ヒューマンライツ 158**(部落解放・人権研究所刊, 2001.5): 525円
 アイデンティティと差別・偏見 6 社会的視野を持つ自己決定へ 石川結加
 今月のおすすめ
 『あの会社がこんなユニークな活動を...暮らしにみる企業の社会貢献』(藤井則彦著)/『もっと知ろう朝鮮』(尹健次著)/『あたらしい憲法のはなし』(童話屋編集部編)/『NPOと参画型社会の学び 21世紀の社会教育』(佐藤一子編著)/『Human Sexuality トーク&トーク 2 買春と売春と性の教育』(鈴木水南子・村瀬幸浩・角田由紀子・草野いづみ著)
 玲子さんの映画批評 「東京攻略」(ジングル・マ監督) アジアの文化発信の地たりうるか 川西玲子
- ヒューマンライツ 159**(部落解放・人権研究所刊, 2001.6): 525円
 奈良本先生を悼む いま、ある、われに残されたことは、なにか 秋定嘉和
 「不妊治療」が引き起こす社会的・倫理的問題 利光恵子

公教育がはじく「異質」 草津市「たんぼボ」を居場所にする南米から来た子どもたち 中村一成

今月のおすすめ

『メディア学の現在 [新版]』(山口功二・渡辺武達・岡満男編) / 『思春期の危機を生きる子どもたち』(中西新太郎著) / 『外国人労働者新時代』(井口泰著) / 『「こころ」はどこで壊れるか 精神医療の虚像と実像』(滝川一廣著) / 『NPOの実践経営学』(河口弘雄著)

図書紹介 『現代史を見る目 戦争・差別・公害』(小山仁示著) 民衆の幸せ求め、史実の重み示す 大谷渡玲子さんの映画批評 「トラフィック」(スティーブン・ソダーバーグ監督) 川西玲子

ひょうご部落解放 第98号(兵庫部落解放研究所刊, 2001.3): 1,000円

「播州寄講」の成立と展開 北播磨地方本願寺派を中心として 和田幸司

幕府文書『祠部職掌類聚』によって明らかになった「美作改宗一件」の全容 小椋孝士

再び「酒」と「皮晒し」について 「ケガレ」は歴史と共に変化し、展開していった 安達五男

近世丹波村方騒動に関する一史料 村上紀夫

「特殊部落」観成立前史 再説「特種部落」および「特殊部落」の呼称の形成過程とその時期 小島達雄

IT(情報技術)革命と人権教育 根本親良氏の「二十一世紀における同和地区児童生徒のあり方」をめぐって 細見義博

ひょうご部落解放 第99号(兵庫部落解放研究所刊, 2001.5): 700円

特集 「狭山」今なぜ市民の会なのか

教育特集によせて 杉岡康次郎

書評 『愉快的裁判官』(寺西和史著)

映画評 『リトル・ダンサー』(スティーヴン・ダルドリー監督) 萩原弘子

部落 674号(部落問題研究所刊, 2001.4): 525円

特集 「人権救済制度の在り方・中間取りまとめ」批判 滋賀県甲西町 「同和」のない新しいまちづくりめざして 今井洗一

講座 人権教育1 なぜ「人権教育」なのか 用語の定義 八木英二

三木一平氏収集資料目録(京都関係分)について 木下光生

文芸の散歩道 中里介山『大菩薩峠』に見る差別とのたたかい 渡邊巳三郎

部落 675号(部落問題研究所刊, 2001.5): 525円

特集 「同和教育研究会」解散と今後の展望

講座 人権教育2 人権教育の押しつけはなぜだめなのか 法的な押しつけによる危険 八木英二

本棚

『資料と論評「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」』(部落問題研究所編) 工藤毅 / 『12,000人の子ども調査から見えてくるもの 分析と提言』(和歌山県国民教育研究所刊) 辻健司

文芸の散歩道 『破戒』のなかの地名 「飯山」から「テキサス」まで 川端俊英

部落 676号(部落問題研究所刊, 2001.6): 525円

特集 第50回全国部落問題夏期講座

部落史学習をどのようにすすめるか 「ケガレ論」批判 井ヶ田良治

同和行政終結にむけて1 高知県のヤミ融資事件と同和施策の廃止・見直しの動き 西村導郎

異常な三重県の同和行政, 同和教育 その終結をめざして 久松倫生

講座人権教育3 なぜ人権教育を押しつけてはだめなのか 「教育の条理」から 八木英二

本棚 『人権からみた文学の世界 大正篇』(川端俊英著) 新庄佑三

文芸の散歩道 小説『破戒』構想のモデル大江磯吉 「部落民宣言」の濡れ衣 桑原律

部落解放 485号臨時号(解放出版社刊, 2001.4):

1,050円

ボランティア国際年と人権

部落解放 486号(解放出版社刊, 2001.5): 630円

特集 マイノリティー・カルチャー 草の根文化活動のいま

映像フリースペース 「ハンニバル」(リドリー・スコット監督) 異常犯罪映画の商品化 白井佳夫

東京音楽通信 モンゴルの歌声 ノロヴバンザド 藤田正

やっぱり今この本を12 『河原にできた中世の町 へんれきするする人びとの集まるところ』(網野善彦・文ノ司

修・絵) 今江祥智

人権の社会的共通資本を充実させよう 北口末広著『人権の時代をひらく改革へのヒント』を読んで 和田献一

ルポルタージュ部落3 反骨と苦悩の歴史のなかから 小諸の被差別部落を歩く(下) 鎌田慧

わが師・小笠原登 ハンセン病隔離政策に反対しつづけた医学者 大谷藤郎

近代の奈落を歩く17 大逆事件から水平社まで(下) 明治・大正期和歌山の被差別部落 宮崎学

ホルモン奉行5 韓国篇 角岡伸彦

部落解放 487号(解放出版社刊, 2001.6): 630円

特集 人権のまちづくり

大きく変容しつつある「同和」地区のまちづくり 内田雄造/みんなが参加し、生き生きと暮らすために 大阪市・西成地区のまちづくり 栗原佳子/「浸水のまち」から「親水のまち」へ 滋賀県栗東町・十里地区のまちづくり/今日に向き合う者には明日が見える「施設コンフリクト」の体験を通じて 塚本正治

アメリカ・レポート 21世紀の人権運動5 ブッシュ政権の人権政策とNPOの反応 柏木宏

映像フリースペース「ディスタンス」(是枝裕和監督) 自由で不自由な時代 白井佳夫

東京音楽通信 地雷/戦争 2つのメッセージ・ソング ZE RO LANDMINE(N.M.L.),スピリチュアル・ユニティ(登川誠仁) 藤田正

やっぱり今この本を13 『きょうも天気』(まど・みちお詩) 山下明生

本の紹介

『迷いの体 ボディイメージの揺らぎと生きる』(石井政之著)/『レブラなる母』(松居りゅうじ著)/『湊川を、歩く』(登尾明彦著)/『サバイバー・フェミニズム』(高橋りりす著)/『虐げられた人びとの復権』(花園大学人権教育研究室編)/『大阪の部落史 第8巻』(大阪の部落史委員会編)

みんなで支え合う「おみこしプラン」を 精神障害者による差別落書き事件を通して 細見義博

差別と不況にまけない取り組みを 東京都墨田区で「木下川ピッグレザー団」誕生 北川京子

部落解放 488号(解放出版社刊, 2001.7): 630円

特集 人権とは何か

無関心と興味本位のあいだ 伏見憲明

人間回復の橋を架けた熊本地裁判決 八尋光秀

人間はずばらしい 島比呂志

映像フリースペース「ココニイルコト」(長澤雅彦監督)

白井佳夫

東京音楽通信 アフリカに隣り合ったアジア マダガスカルのタリカ 藤田正

やっぱり今この本を14 『ユリシーズの涙』(ロジェ・グルニエ著) 今江祥智

中・近世に生きた職人たち1 『職人歌合絵』に見る被差別民の風俗 点景として描かれた「職人」 『天狗草子』や文学作品から 岩崎佳枝

本の紹介

『雇用と職業における平等』(九州大学大学院吾郷ゼミ・横田ゼミ共同訳)/『障害者はどう生きてきたか 戦前戦後障害者運動史』(杉本章著)/『自白の心理学』(浜田寿美男著)

「部落に生まれてよかった」と言ってもらえる取り組みを 高知市・福祉ステーション「やさしいグループ」の訪問介護事業 森田益子

実体概念ではなく、関係概念としての「部落民」概念の再構築 谷元昭信氏の批判に答える 野口道彦

部落解放運動情報 57号([部落解放運動・情報]編集委員会刊, 2001.4): 300円

こんな本がでています

『「民」食う人びと 新・日本官僚白書』(佐高信著)/『機会不平等』(斎藤貴男著)

部落解放運動情報 58号([部落解放運動・情報]編集委員会刊, 2001.5): 300円

こんな本がでています

『眼の探索』(辺見庸著)/『季刊ファイト・バック』(性暴力を許さない女の会刊)

部落解放運動情報 59号([部落解放運動・情報]編集委員会刊, 2001.6): 300円

こんな本がでています

『ロシアは今日も荒れ模様』(米原万里著)/『聖の青春』(大崎善生著)

部落解放研究 第139号(部落解放・人権研究所刊, 2001.4): 1,000円

特集 法期限後の同和行政の基本的あり方

福山市における今後の同和行政のあり方について 高野眞澄 / 「福岡市における今後の同和对策のあり方」についての当市協の見解 塩手真吾 / 同和行政の新展開へ準備を整え人権行政の仕組みづくりへ 大阪の取り組みを振り返って 村井茂

大きく変容しつつある部落のまちづくり 人権のまちづくりを中心に 内田雄造

交通バリアフリー法と今後の発展 三星昭宏

差別と差別意識・偏見についての研究動向 八尾勝

部落高校生の進路に関する実証的研究2 進路の階層間格差の背後にあるもの 鍋島祥郎

シンポジウム「21世紀の企業像 良い会社ってなに？」

報告 伊藤衆子

部落の若い世代はいま2 部落と部落外の人の結婚をめぐる 部落問題研究会事務局

書評

『近世藩領社会の展開』(高橋啓著) 山下隆章 / 『変動社会のなかの教育・知識・権力 問題としての教育改革・教師・学校文化』(藤田英典・志水宏吉編) 芝山明義 / 『雇用と職業における平等』(ILO編) 竹下政行

部落解放研究 第140号(部落解放・人権研究所刊, 2001.6) : 1,000円

特集 地域教育コミュニティづくりの今

地域教育コミュニティづくりの今 野口克海 / 高知県佐賀町立佐賀中学校区 めくもりのあるまちづくり 陸野高俊 / 大阪府貝塚市立第二中学校区 地域ネットワークづくりをめざして 横田章彦 / 福岡県田川市立金川中学校区 地域の「ひと・もの・こと」との豊かな出会いをもとめて 矢津田俊彦 / 大阪府貝塚市立北小学校区 地域も学校も楽しいことから 榎田幸子 / 大阪府茨木市立三島中学校区 夢をはぐくむ学校づくりをめざして 畠山真悟

大阪における同和地区の住まいの実態とまちづくり運動に関する一考察 寺川政司

戦後部落住民意識調査に見る「部落民」としてのアイデンティティ状況(上) 内田龍史

SRIとGRIガイドライン 岸本幸子

部落の若い世代はいま3 部落と部落外の人の結婚をめぐる 結婚問題研究会事務局

書評 『企業評価の新しいモノサシ』(斎藤慎著) 西口徹

部落解放史・ふくおか 第101号(福岡部落史研究会刊, 2001.3) : 1,050円

特集 同和教育と学校改革

総合的学習を通してカリキュラムの転換を 森谷宏幸 / 参加体験型学習の可能性 新谷恭明 / 原点としての識字運動 川向秀武

深くて明るい社会同和教育 生涯学習啓発現場での生かし方 森山沾一

江戸時代前期の牛皮輸入 皮田(かわた)の役割に関連して(下) 阿南重幸

『部落解放史・ふくおか』分類別総目次(創刊~100号)

書評 『ナチ独裁下の子どもたち ヒトラー・ユーゲント体制』(原田一美著) 加藤陽一

部落解放なら 第15号第1分冊(奈良人権・部落解放研究所刊, 2001.3) : 1,500円(1・2分冊)

奈良の同和教育と人権教育の展望

奈良の人権教育と同和教育 梅田昌彦 / もしもし亀よ亀さんよ 同和教育=解放教育の可能性はどこにあるか?

吉田智弥 / 「人権教育のための国連10年」と日本の人権教育改革 岡崎裕 / 不登校の子どもと親の立場から伝えたいこと 大谷かおる / 「人権教育・教育改革」検討懇話会の取り組みについて 楠木克弘

部落解放なら 第15号第2分冊(奈良人権・部落解放研究所刊, 2001.3) : 1,500円(1・2分冊)

明治18年大和国農工商衰頹調査書

解説『農工商衰頹原因調書』(明治18年)に関する若干の考察 桐村彰郎, 和田恵治 / 解題 松方デフレ下の被差別部落の惨状 『明治18年農工商衰頹原因調書 大阪府農商課』 臼井壽光 / 翻刻 農工商衰頹原因調書

部落解放ひろしま 第52号(部落解放同盟広島県連合会刊, 2001.5) : 1,000円

特集 改憲勢力は何を意図しているか

迷走する改憲勢力 國弘正雄 / 憲法「改正」論と戦後補償 内田雅敏 / 国家主義の台頭と「人権教育・啓発法」

岡田英治 / 教育改革国民会議を批判する 藤川伸治

小林一茶における反権力的眼形成への視点 田坂英俊

日本文化の因習を考える9 「仏教教団の因習・習俗」を問う射程1 葬儀という習俗 小武正教

月刊部落問題 292 (兵庫部落問題研究所刊, 2001.4) :
350円

特集 兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針
近代の社会的差別53 友愛会の歴史的意義と社会事業7
布川弘

児玉花外の孫文・中国独立革命観 「孫逸仙に與ふる詩」・
「孫逸仙今奈何」・「孫逸仙を送る」を中心に 後藤
正人

月刊部落問題 293 (兵庫部落問題研究所刊, 2001.5) :
350円

特集 同和公営住宅の展望 NPO神戸まちづくり同和公営住
宅部会
近代の社会的差別54 友愛会の歴史的意義と社会事業8
布川弘

児玉花外のヨーロッパ人・デモクラシー観 詩「仏蘭西
國民に寄す」を中心に 後藤正人

月刊部落問題 294 (兵庫人権問題研究所刊, 2001.6) :
350円

特集 すすむ同和行政の終結

同和事業の終結と本音で話せるまちづくりをめざして
滋賀県甲西町での取り組み 東川嘉一/同和行政の
終結をすすめる東大阪市の市民運動 東大阪同和行政終
結めざす会

一人でもできる同和行政不正監視 解放同盟への補助金
違法支出の取材から 寺園敦史

近代の社会的差別55 友愛会の歴史的意義と社会事業9
布川弘

部落問題 調査と研究 151 (岡山部落問題研究所刊, 20
01.4) : 650円

人権教育の日本的性格と課題1 同和教育から人権教育へ?
生田周二

西部邁『国民の道徳』を読む 竹田稔和

事・辞典の汚染一揆記述 大森久雄

忘れられた農民一揆5 明治四年県南四郡騒動始末記 清
野忠昭

部落問題 調査と研究 152 (岡山部落問題研究所刊, 20
01.6) : 650円

史料は語る3 倉敷村の牢番3 大森久雄

本の紹介 『外国人労働者新時代』(井口泰著) 竹田稔
和

人権教育の日本的性格と課題2 人権教育の国際的動向と
課題1...人権教育という言葉 生田周二

部落問題研究 155 (部落問題研究所刊, 2001.4) :
1,111円

「人権としての教育」論はどこまで来たか 人権規約教
育権の一般注釈について 八木英二

セクシュアル・ハラスメント議論の陥穽 懲戒はセク・
ハラ問題の解決か 新谷一幸

史料紹介 奈良県北葛城郡役所『明治38年特種部落状況視
察書類』(上) 鈴木良

部落問題研究 156特別号 (部落問題研究所刊, 2001.6) :
2,187円

第38回部落問題研究者全国集会報告

中世奈良の非人集団と中世の身分 小川央/近世かわた
村の食糧問題とお救い 18~19世紀, 和泉国嶋村の場
合 藤本清二郎/全国水平社創立大会について 水平

社創立をめぐる(その8) 鈴木良/人権擁護推進
審議会の動向 村下博/「差別」と「差別意識」につい
て 地域の学習場面の実態から 生田周二/人権論か
らみた司法改革の動き 丹羽徹/いわゆる人権保育論の
批判的検討 神谷栄司/「人権総合学習」の批判的検討

国広悦正/子どもの社会認識の発達と教育実践 川本
治雄/『新修・部落問題事典』文芸項目を論評する 秦
重雄/津田潔『破戒』研究の提起に於て 三たびテ
キサス行きを論ず 川端俊英/「大江磯吉」の伝説部
分に見る人間像と「瀬川丑松」の復権 丑松・蓮太郎
のモデル像をめぐる 桑原律

「結婚」と部落差別と~インターネットで見られる事例
から~ 廣岡浄進

僕が一回生だった頃 ぱく・そんて

社会見る障害者差別 安部宏行

「ろう」と「ろう者」を取り巻く状況の、ある種のコー
ラージュ的語りあるいはエッセイ 長谷川美穂

ある女性からの手紙 福嶋順

「韓国語」と「朝鮮語」の間 そごうしゅんすけ

『あなたは強い、私は弱い』なんてことは 中越綾

本の紹介 『放送禁止歌』(森達也著)

「韓国語」と「朝鮮語」の間 そごうしゅんすけ

『あなたは強い、私は弱い』なんてことは 中越綾

本の紹介 『放送禁止歌』(森達也著)

「韓国語」と「朝鮮語」の間 そごうしゅんすけ

『あなたは強い、私は弱い』なんてことは 中越綾

本の紹介 『放送禁止歌』(森達也著)

民権協ニュース 123 (在日韓国民主人権協議会刊, 200
1.2) : 300円

書籍紹介 『好きになってはいけない国 韓国J-POP世代が見た日本』(菅野朋子著)

民権協ニュース 124(在日韓国民主人権協議会刊,2001.3):300円

書籍紹介 『「在日」のはざままで』(金時鐘著)

民権協ニュース 125(在日韓国民主人権協議会刊,2001.4):300円

書籍紹介 『在日韓国人の終焉』(鄭大均著)

もやいながさき部落解放研究 第42号(長崎県部落史研究所刊,2001.3):700円

体験的参加型学習の力を再考する 野本美和子

時間をたどる 江戸時代「部落」の歴史 阿南重幸

磯本恒信氏を偲ぶ 藤澤秀雄

長門隆明さんの帝国陸軍における軍隊体験 岩松繁俊

書評 『日本の経済格差』(橋木俊詔著),『不平等社会 日本』(佐藤俊樹著),『機会不平等』(斎藤貴男著)

不平等社会の再来を警告する三冊の本 前川雅夫

『犯科帳』史料紹介 「部落」史関係記事[文政5年~文政11年] 山下信哉

立命館平和研究 立命館大学国際平和ミュージアム紀要 第2号(立命館大学国際平和ミュージアム刊,2001.3)
特集1 戦争と芸能

戦時下の芸能 木津川計/戦争と演芸 竹本浩三/戦時下の音楽家・映画人の価値観を考える 安斎育郎/戦時下における大衆芸能に関する考察 相原進/戦争中の能楽 河村隆司/戦中戦後の箏曲界と戦争体験 箏屋「琴伝」畑伝兵衛氏の記憶 畑伝兵衛

特集2 日本とオランダのインドネシア支配を考える

展示会「オランダ人・日本人・インドネシア人」の意義と評価 エリック・ソーメルズ/インドネシアにおける日本統治と「南方徴用作家」 阿部知二を中心に 木村一信/日本・オランダ・インドネシア三国間のわかまり 中尾知代

新聞書評欄等 (2001年4月~6月受入)

~各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました~

解放新聞 第2014号(解放新聞社刊,2001.4.9):80円

今週の一冊 『暴走するプライバシー テクノロジーが「暴き屋」の武器になる日』(シムソン・ガーフィンケル著)

解放新聞 第2015号(解放新聞社刊,2001.4.16):80円

今週の一冊 『経済成長がなければ私たちは豊かになれないのだろうか』(C・ダグラス・ラミス著)

解放新聞 第2016号(解放新聞社刊,2001.4.23):80円

今週の一冊 『イギリスのいい子 日本のいい子』(佐藤淑子著)

山口公博が読む今月の本

『生きること 学ぶこと』(内田義彦著)/『Papa

told me』(榛野なな恵著)/『大往生』(永六輔著)

解放新聞 第2017号(解放新聞社刊,2001.4.30):120円

今週の一冊 『幸福論』(吉本隆明著)

映画 「ある歌い女の思い出」(ムフィーダトゥラートリー監督)

ケガレと人間の存在 差別のメカニズムを解く3 ケガレと穢は同じだったのか 川元祥一

解放新聞 第2018号(解放新聞社刊,2001.5.14):80円

今週の一冊 『小さな手、折れた翼』(落合恵子他著)

解放新聞 第2019号(解放新聞社刊,2001.5.21):80円

今週の一冊 『知の攻略思想読本2 マルクス』(今村仁司編)

奈良本辰也先生を偲んで 村越末男

解放新聞 第2020号(解放新聞社刊,2001.5.28):80円

今週の一冊 『チーズはどこへ消えた?』(スペンサー・ジョンソン著)

山口公博が読む今月の本

『大正の小さな日記帳から』(上村秀男著,上村武男編)/『罨の兎』(高村三郎著)/『小説 石田波郷』(土方鐵著)

解放新聞 第2021号(解放新聞社刊,2001.6.4):120円

今週の一冊 『はい、子どもの人権オンブズパーソンです 兵庫県川西市の試みから』(住友剛著)

解放新聞 第2023号(解放新聞社刊,2001.6.18):80円

今週の一冊 『六ヶ所村 核燃基地のある村と人々』(島田恵写真・文)

解放新聞 第2024号(解放新聞社刊,2001.6.25):80円

今週の一冊 『死の影の谷間から』(ムミア・アブ=ジャ

マール著)

解放新聞 第2025号(解放新聞社刊,2001.7.2):120円
今週の一冊『青い眼がほしい』(トニ・モリスン著)
ケガレと人間の存在 差別のメカニズムを解く4 文明と
しての部落の存在 川元祥一

解放新聞改進黨 第281号(部落解放同盟改進黨支部刊,2001.4.20)

私の本棚139『21世紀の学校はこうなる ゆとり教育の本質はこれだ』(寺脇研著)岡田一志

解放新聞東京版 第522号(解放新聞社東京支局刊,2001.4.15):90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評「スターリングラード」(ジャン=ジャック・アノー監督)

解放新聞東京版 第524号(解放新聞社東京支局刊,2001.5.15):90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評「JSA」(パク・チャヌク監督)

解放新聞東京版 第526号(解放新聞社東京支局刊,2001.6.15):90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評「みんなのいえ」(三谷幸喜監督)

事務局より

研究資料センターが発足して一年が過ぎました。部落史編纂事業が中心だった京都部落史研究所から、図書室の一般開放、ホームページやこの「Memento」での情報提供を中心とした研究資料センターへの移行ということで事務局もとまどうことが多い一年でした。

最近になってようやく当センターの存在も知られるようになり、研修の依頼や問い合わせが相次いでいます。又、「インターネットでさがしました」と、多くの学生さんがレポートやゼミ発表などの準備で調べに来られています。外への宣伝ということではやはり、ホームページの力は大きいようです。ということで、ホームページのトップを衣替えしました!カエルの声も涼しげな夏向きの動画になっています。是非御覧下さい。又、コンテンツに「図書情報」欄を新設しました。内容は 新着図書一覧(月1~2回更新予定) 所蔵図書データベース(近日公開予定) 受入逐次刊行物一覧(受入雑誌のタイトルと発行所の一覧です) 逐次刊行物目次情報(月1~2回更新予定) 部落史関係論文データベース(近日公開予定)となっています。できるだけ新しい情報を提供できるよう、「人権関係テレビ番組情報」(2週間毎更新)と共に更新作業に励みます。インターネットを利用されていない方も、最近は図書館などで無料で利用ができるようになってきているようです。(京都府立図書館のマルチメディア閲覧室ではインターネット情報閲覧ができます。)是非、研究資料センターホームページ(www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/)をのぞいてみてください。

前号でお知らせいたしました「資料説明会」を5月12日に開催しました。参加者は大学生や学校の先生など16名で、灘本所長が資料構成及び利用方法について詳しい説明をした後、参加者各自の研究テーマ等の交流や図書資料を実際に利用していただきました(参加者には『京都部落史研究所所蔵図書目録』のお土産付でした)。今後も、ご要望があれば開催する予定です。

京都部落史研究所時代から事務局を担っていただいていた前川修さんが6月末で退職され、兵庫部落解放研究所に移られました。置き土産となりました前川さん製作の京都の部落史に関するパネル展示は、御好評を得ています。是非御覧になってください。

8月11日(土)から19日(日)
まで閉室します

